

ひまひま データ

オフライン

数字で遊ぶ
ボートレース

前回の優勝から遠ざかっている記録を調べていくと興味深いことがわかりました

表1-1 ●96年以降、GII以上優勝の次の優勝までの期間上位

登番	選手名	久しぶり優勝	最後の優勝	タイトル	次の優勝
4292	麻生 慎介	5年0か月	2017/3/13び	GII秩父宮妃	→ 2022/3/21戸
3114	渡邊 博子	4年10か月	1997/3/5蒲	GIIレディースC	→ 2002/1/26住
4019	笠原 亮	3年6か月と24日	2008/2/6蒲	GI地区選	→ 2011/8/30住
2291	野中 和夫	3年6か月と23日	2001/4/15住	GIマスターズC	→ 2004/11/7児
3611	岩崎 芳美	3年5か月と13日	2020/3/8鳴	GIIレディースAS	→ 2023/8/21鳴
4448	青木 玄太	3年5か月と8日	2017/1/22大	GIIMB誕生祭	→ 2020/6/30常

表1-2 ●96年以降、最後のGII以上優勝から1年以上優勝がない現役選手(継続中)

登番	選手名	優勝なし期間	最後の優勝	タイトル
4499	滝川真由子	9年9か月	2015/8/9丸	GIIレディースC
4611	今井 美亜	5年5か月	2019/12/31徳	GIクイーンズC
4823	中村 桃佳	2年6か月	2022/11/27鳴	GIIレディースCC

表1-3 ●96年以降、GII以上優勝の後に優勝がないまま引退

登番	選手名	優勝なし期間	最後の優勝	タイトル
2844	田中 伸二	14年3か月	2008/4/20宮	GIマスターズC
1710	万谷 章	7年8か月	2006/4/23尼	GIマスターズC
2170	古川 文雄	2年8か月	1999/9/16大	GI大村周年
1910	大森 健二	2年0か月	2004/4/25住	GIマスターズC

5月の下関ヴィーナスSで滝川真由子選手が優勝戦1号艇に。滝川選手は最後の優勝から9年9か月が経っていたと知りました。最後の優勝から10年以上経っているということもよくあり、うで、気になっていなかったのですが、滝川選手の前回の優勝は15年8月「GIレディースチャンピオン」(丸亀)。14年12月の15年2月のF2の影響もあり、B1級に落ちていたタイミングでした。その後16年3月末の優出を最後に2年以上の産休長期欠場が2回あり、21年5月から本格復帰。もうそ



の時点で6年ほど経過ですが、その後も優勝はなく、この下関が12年ぶりの「1号艇」で、GI優勝以来久しぶりの優勝のチャンスでした。最後の優勝がGII以上ということが、どの程度珍しいことかよくわかっておらず、今回調べてみました。データはいつも通り96年以降のものです。

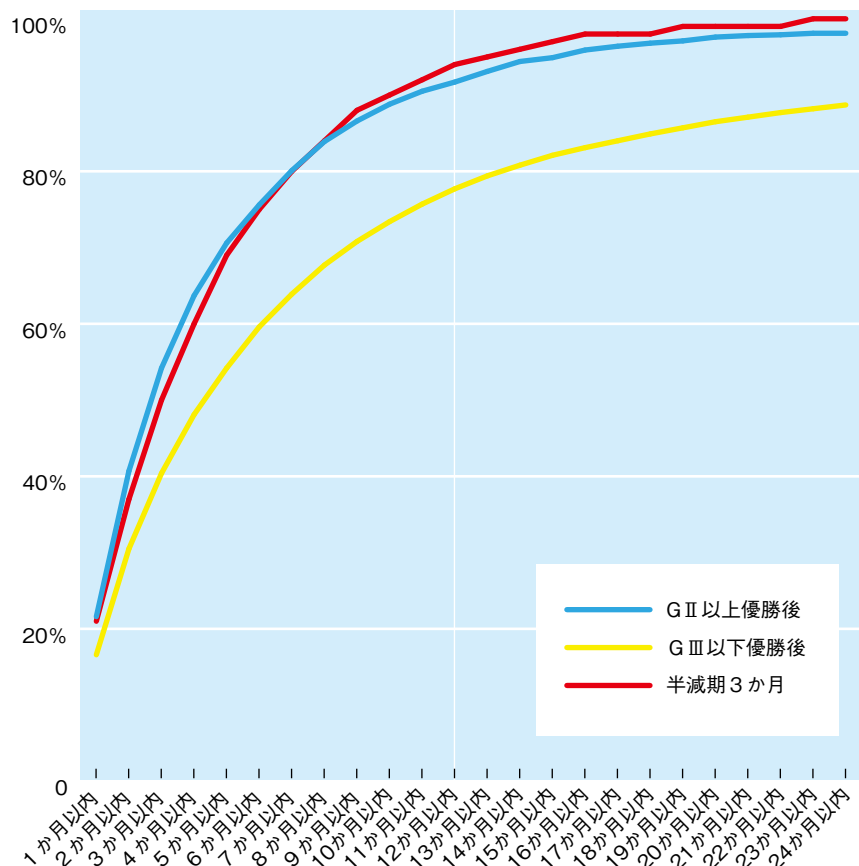
GII以上優勝の次の優勝まで

滝川選手のケースがどのくらい珍しいのか、GII以上優勝してから、次の優勝(どのグレードでも可)までどのくらいの期間がかかったかのランキングを作ってみました(表1-1)。

GII以上を優勝した選手のうち、次の優勝まで最も長かった選手は麻生慎介選手の5年0か月でした。麻生選手はGII優勝後、優勝戦は1号艇もなく20連敗、その間優勝戦Fも2回ありました。そして5年後の戸田で優勝となりました。その記録が一番長く、9年9か月優勝がない滝川選手が優勝すれば最長記録となりそうです。

ちなみに3位の笠原亮選手はその直前08年前期で9優出6優勝などの活躍。そして08年2月のGI地区選で6コースから優勝。ところがそれ以降優勝戦41連敗となり、11年8月住之江で3年半ぶりの優勝を挙げたのでした。実はこの住之江での優勝は1コースで、ここから22年12月の福岡までのおよそ11年以上「優勝戦1コース24連続優勝」の大記録が生まれたのでした。※今も優勝戦1コ

グラフ1 ●96年以降、GⅡ以上優勝後の何か月以内の再優勝率



イス連続優勝の最長記録です（2位タイ：22連勝Ⅱ寺田祥・峰竜太、4位：20連勝Ⅱ安田政彦）。4位の野中和夫選手は第2回のGⅠマスターズチャンピオンを57歳で優勝。その後3年半優勝がなかったものの、04年11月児島の一般戦で優出。優勝戦は6号艇・6コースから久しぶりの優勝!! 還暦レーサー（60歳以上）の6コース優勝達成は、歴代でこの野中選手ただ1人です。その数か月後に選手会長に就任されたので、野中選手の最後の優勝となりました。

では、現役で継続中の選手はどうでしょうか？（表1-2）
前述した滝川選手の9年9か月が最長です。その次が5年5か月で、19年年末にQCを制覇した今井美亜選手でした。一時的に4期連続B1級に落ちてしまったりしましたが、最近では復調気配。そろそろ次の優勝が出るのではないのでしょうか。優勝すれば、麻生選手の記録を超えることになります。
3位は中村桃佳選手で22年11月のGⅡレディーズCC優勝から2年半が経過。1年5か月の長期欠場があ

表2-1 ●96年以降に優勝がある選手の久しぶり優勝

登番	選手名	久しぶり優勝	1つ前の優勝	次の優勝
2265	山本 義隆	23年5か月と19日	1979/9/5津	→ 2003/2/24唐
2665	佐久間文雄	23年4か月と28日	1975/5/27芦	→ 1998/10/25大
3303	渡辺 豊	23年4か月と28日	2000/2/27福	→ 2023/7/25桐
3377	塚田 修二	19年9か月	1992/7/7児	→ 2012/4/23多
3569	増田 進	18年0か月	1997/7/14江	→ 2015/7/20戸

表2-2 ●現役で23年以上優勝から遠ざかっている選手

登番	選手名	最後の優勝から	最後の優勝	最後の優出	優勝戦連敗中
3370	坪内 実	31年1か月	1994/4/17津	2013/8/28福	20
3578	塩田 雄一	28年7か月	1996/10/11尼	2022/7/3唐	93
3372	加藤 雅之	26年4か月	1999/1/27桐	2015/10/19江	36
3808	秋田健太郎	25年11か月	1999/5/30戸	2021/8/23戸	54
3551	藤田 美代	25年8か月	1999/9/7住	2024/9/29児	20
3644	矢橋 成介	25年1か月	2000/4/9津	2015/3/9戸	9
3355	橋谷田佳織	25年0か月	2000/5/22常	2015/9/18江	13
3477	近藤 稔也	25年0か月	2000/5/23鳴	2021/10/13丸	67
3459	中野 和裕	24年3か月	2001/2/12蒲	2009/7/20三	22
3340	池田 雷太	24年2か月	2001/3/12芦	2020/3/18江	29
3482	金子 猛志	23年2か月	2002/3/19桐	2024/11/18戸	45
3583	齋藤 智裕	23年1か月	2002/4/10宮	2019/6/2戸	10

1か月以内に優勝できた選手は1577人に対して341人で21・6%。私は意外と多いと思いました。さすが特別レース王者！ 勢いそのままにすぐ次の優勝をしているのですね。
3か月まで範囲を広げると、54・2%が優勝。半数以上の選手が該当しています。6か月以内では75・7%、9か月以内では86・6%。おやおや？ これは優勝できない選手は3か月で半分以下に減っているというこ

りましたが、今年1月に復帰しています。
継続中のまま引退した選手も調べないといけないでしょう（表1-3）。該当は4人だけでした。最長は田中伸二選手でGⅠマスターズCで優勝した後、優出は7回。22年8月で引退されました。本当の最長記録は田中選手の14年3か月と言えるのかもしれない。
2位は万谷章選手。こちらもマスターズCで62歳5か月でのGⅠ優勝。60歳以上唯一のGⅡ以上優勝者です。先日のSGクラシックでは50歳7か月の深井利寿選手が自身初のSG準優に乗ったとき、SG初優出

の最年長は誰だ？ ということになったと思います。そう30年以上たった今もSG「初」優出最年長記録は万谷選手の48歳10か月（92年10月SGダービー）のままです。
GⅡ以上優勝後の何か月以内の優勝率



笠原亮

表3-1 ●96年以降、5か月以上の欠場明けの復帰戦で即優勝した選手

登番	選手名	復帰戦初日まで	最後の出走		復帰戦優勝日
4589	塩崎 桐加	1年2か月と28日	2016/10/9	→	2018/1/11宮
4019	笠原 亮	1年2か月と14日	2020/8/16	→	2021/11/3浜
2930	新良 一規	0年8か月	1999/12/10	→	2000/9/10下
4193	郷原 章平	0年7か月	2008/12/18	→	2009/8/2芦

表3-2 ●96年以降、プレミアムGIと地区選を除く「GI」で、A1級以外の選手の優出

登番	選手名	年月日/場	タイトル	優出
3012	關戸 保生	1996/1/16尼	GI周年	2着
2502	松田 雅文	1996/1/23唐	GI周年	2着
3251	平石 和男	1996/9/12桐	GI周年	6着
3086	沼田 嘉弘	1998/1/18尼	GI周年	6着
4019	笠原 亮	2001/12/13浜	GIDC	6着

※5件とも級別は
全てA2級

表3-3 ●96年以降、B級選手のGI以上優勝

登番	選手名	年月日/場	タイトル	級別
2291	野中 和夫	1996/7/22住	SGオーシャンC	B1級
3114	渡邊 博子	1997/3/5蒲	GIレディーズC	B1級
3010	大嶋 一也	2007/4/22大	GIマスターズC	B1級
4499	滝川真由子	2015/8/9丸	GIレディーズC	B1級

とでは？ グラフには、優勝できない選手が3か月で半減するラインを赤い点線で引いてみました。1年を過ぎるとラインを離れていくようですが、概ねこのラインに乗っているのではないのでしょうか。

こうなると気になるのは、GⅢ以下で優勝した選手はどうなのか？

GⅢ以下で優勝した選手も1か月以内に16・6%がまた優勝しています。そして4か月以内に約半数。ただGⅡ以上ほどの勢いはなく、1年間で77・7%。9人に2人は、次の優勝ができていないようです。ちなみに10年間では98・1%。2万1438人に対して、415人だけ優勝できていない選手がいました。

久しぶり優勝記録

このような記録を集計していると、その後優勝できなかった選手や、久しぶりに優勝した選手の方が気になってきたりします。久しぶり優勝関連の記録をまとめておきます(表2-1)。

集計対象は96年以降に優勝がある選手全員で、95年以前に優勝して久しぶりに優勝を達成したという記録は入っていません。

最長は今も山本義隆選手の23年5か月。僅差で佐久間文雄選手の23年4か月でした。この記録に最も接近したのは23年7月に優勝した渡辺豊選手。○年○か月という集計では佐久間選手に並ぶ2位タイの23年4か月と28日でした。

続いて現役継続中の最後の優勝から遠ざかっている選手です(表2-2)。優勝すれば記録更新となる選手が10人いるようです。

最長は坪内実選手で最後の優勝が94年4月。デビュー5年目(10期目)に挙げた優勝が最後になっています。それから31年の年月が経過しているようです。

2位は塩田雄一選手で26年4か月。オール進入固定の時代に2回の優勝があり、その後優勝戦93連敗となっています。

その他、気になる記録

最後に1つ、表1-1にある笠原亮選手と言えば、SG初出場&初優勝のときでもない記録も持っています。

ですが、久しぶりに復帰して即優勝で2位の記録を持っています(表3-1)。

1位は1年2か月と28日の産休明けで即優勝した塩崎桐加選手。笠原選手は20年8月のお盆レースで負傷して1年2か月もの欠場。その復帰戦で優勝戦1号艇に乗って即優勝でした。

笠原選手は他にもまだA1級に上がる前のA2級の時に2つのGI(周年とDCC)に初日から出場して、2節目の01年12月浜名湖GIダイヤモンドCでは18位で準優に乗って、3着で繰上り優出(GI初優出)などもあります。

プレミアムGIや地区選でA2級以下の選手が優出することはよくありますが、それ以外での優出は5件しかありません(表3-2)。

A2級ではないですが、最初に挙げた滝川選手のB1級でGI優勝も珍しいことです。GⅡ以上でB級選手の優勝は4件だけです。これは有名な表だと思えますが、このうち野中選手と渡邊博子選手は最初の表1-1にも名前があります。

久しぶりの優勝を検証してみると、あちらこちらに同じ選手がリンクする表ができてしまいました。独特の記録が出がちな選手がこれらの記録を達成しているのでしょうか。